

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨 城 県 】

1 実践テーマ	【 IV V 】
2 実施対象者	太子町立太子中学校 1学年：72名 2学年：78名 3学年：69名 合計：219名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育, 総合的な学習の時間) ② 行事名 () ③ その他 (部活動) (2) 地域における活動 1 イベント名 () 2 その他 ()
4 目標 (ねらい)	オリンピアン・パラリンピアンを身近に感じることによって、生徒が保健体育の授業や部活動等でより豊かな心や体の育成を目指し、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための資質や能力を養う。
5 取組内容	1 保健体育科の授業における取組 武道では、柔道を扱う。その中で、オリンピックの正式競技であることや階級別で勝者が決まることを話し、興味を喚起する。さらに、勝敗にこだわることは大事であるが、礼儀やルールの遵守なども大切にすることがオリンピズムの根本原則につながることを伝える。 2 オリンピアンによる講演会 筑波大学との官学連携を活用してロンドンオリンピック柔道60キロ級銀メダリスト 平岡拓晃先生に講演と柔道の実践をしていただく。講演のテーマである「失敗＝ダメではない！」の具体的な話に生徒は瞳を輝かせ大きく頷きながら聞き入った。後半の柔道の実践では、平岡先生と生徒の技の掛け合いがあり、生徒は研ぎ澄まされた技に驚きと憧れを感じていた。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p><講師の講演></p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p><講師中心に生徒の輪></p> </div> <div style="text-align: center;"> <p><技を通して生徒との交流></p> </div> </div>

<p>6 主な成果</p>	<p>講演により、生徒達に変容が見られた。講演会の後、全校生徒に感想文を書いてもらった。その中から代表的な感想の一部を抜粋する。</p> <ul style="list-style-type: none"> •どんな選手でも失敗したり、大変なことがあったからすばらしい結果を出すことができるようになりました。私も目標があるので「失敗＝だめではない」を思い出して頑張ろうと決意しました。 •今まで失敗することが怖く、諦めることが多くありました。そのたびに毎回毎回後悔していました。今回「失敗＝だめではない」と教えていただいたので、いろいろなことに挑戦していきます。 •「失敗＝だめではない」という言葉を聞いたとき、心に響きました。・・・目標をもって練習に励んでいるけど何回も失敗して泣くときがありました。これからは泣かずに練習を励んでいき、総体に向けて努力したいです。 •「失敗」に対して悪いイメージしか持っていませんでしたが、「失敗」から学べることがあることを知りました。これからは「失敗」を前に進む力にかえ、全力で生きていきます。 •私は、つらいことがあると絶対逃げずに立ち向かわなければいけないと思っていました。(話を聞いているうちに)今度は、少しだけ逃げしてみるのもいいのかなと思いました。 •つらいときは自分の目標が近づいているときととらえることを知り、(これからの生き方に)大きな励みになりました。 •「結果が出なくてもどこか自分が成長している」という言葉がとても心に響きました。結果が出なかったりと悩んでいた自分にすごい救いになりました。この言葉を信じてこれからもいろいろなことに努力していきたいです。
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○ 本町は、10年前から筑波大学と官学連携を行っている。今回のオリンピック招致については、その連携の一環として町教育委員会を通して進めた。その過程で大学側から5名のオリンピック・パラリンピアンが示され、本校の意向が反映された招聘となった。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>○ オリンピアンが大学院で研究論文を作成中であり、事前打合せや講演会日程の決定等でオリンピックとのスケジュール調整が難しかった。学校訪問をされるオリンピックが決定した段階で、学校側からオリンピックに講演会までの計画案を提示し、オリンピックから修正等のご意見を伺いながら本番を迎えるなどの工夫が必要であった。</p> <p>○ 上記の日程に合わせて、本学習をカリキュラムのどの学年のどこに位置付けるかなど、学年間の連携や計画をしっかりと立てることが必要である。</p> <p>○ 物品準備等では、予算面での補助があったが、予算の執行については学校と町教育委員会と相談しながら進めると有効かつ計画性のある購入になる。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>○ 保健体育や総合的な学習の時間、部活動を中心にして、オリンピック・パラリンピックの意義や価値について考えさせる。</p> <p>○ オリンピック・パラリンピックの意義や価値に基づき、つぎのような生徒の育成をめざしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> •努力する喜び、よき模範となるなどの普遍的な倫理規範を尊重できる。 •相手の立場になって、誰もが共に楽しむためのスポーツのルール作りや工夫ができる。 •茨城国体においてもオリンピック・パラリンピックの意義や価値に通じるものがあることを感じることができる。